

# AEDの使い方 小学生にも

## 島根県立大 前林准教授が教室



AEDの電極パッドを貼った模型を使い、気道確保の手本を見せる前林英貴准教授。松江市浜乃木7丁目、島根県立大

## 学校での心停止事故に備え

学校での死亡事故は運動中や運動後に心臓が突然止まる事例が少なくない。ボールや格闘技の最中に打撃技が胸に当たった衝撃による重い不整脈や、ランニング中の発作などだ。子ども自身が知識を身に付け友人や家族の命を守るよう、島根県立大人間文化学部の前林英貴准教授(51)が小児保健学Ⅱが本年度、小学生を対象に自動体外式除細動器(AED)の使い方教室を始めた。(山口春絵)

日本スポーツ振興センターの統計によると、2021年度に保育所、幼稚園も含む学校で起きた死亡事故は全国で42件。うち16件は突然死で、原因の半数が心停止だった。多くが持久走や球技の最中などの運動前後に発生していた。AEDの使い方指導は、救命教育として中学、高校の保健体育の

学習指導要領に含まれる。一方、小学校では盛り込まれていないが、高学年からは学校内外で運動する機会が増えるため、前林准教授はスポーツ少年団に所属する5、6年生向けに教室を開いた。意識がなく、呼吸をしていない人に対する胸骨圧迫を指導。AEDのふたを開け、音声による指示に従い、心臓を挟むように電極パッドを体に貼るまでの手順を伝える。

前林准教授は「実技よりも、意識不明者を見つけた時にどう動くかを重視している」と話す。心停止から1分ごとに助かる割合は約10%ずつ下がるとされ、素早い対応が求められる。緊急時に胸骨圧迫はできなくても、周りの大人に状況を伝え、AEDを持つてくることができれば、救える可能性が高くなる。

講習会は約1時間。開催日時や場所は希望者とその都度相談する。受講料は不要。「知識がないと行動できない。まずは方法を知るところから始めてほしい」と参加を呼びかける。

問い合わせは前林准教授、電話0852(26)5525。メールはh-maebayashi@u-shi-man.ac.jp